



ポートランド日本人学校だより

2014. 11. 14

第15-29号

わかば

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

緊急時、悪天候時等における学校の対応！

○臨時休校する場合

* 学級連絡網を通じて、各家庭に休校の連絡を致します。

＜当日：朝6時30分～7時30分の間、 前日：夜8時～10時の間＞

* 前日以前に休校が決定した場合は、その時点で連絡致します。

* 当日の朝7時30分までに連絡がない場合は、平常通りに学校があります。

* 学校のホームページにも掲載しますので、必要に応じてご確認ください。

(注意)： 通学地域は広範囲に及んでおり、地域により状況に違いが生じます。

そのため、開校していてもルートによってはスクールバスが運休する場合があります。各自でバスストップまで行き確認して下さい。運休時の登校につきましては、ご家庭の判断に委ねます。



○早めの下校（天候の急変等への対応）が必要と判断する場合

* 学級連絡網を通じて、時間を繰り上げてのお迎えをお願いすることになります。

* 保護者が迎えに来るまで、子ども達は教室で待機させます。直接各教室に行き、担任の確認を受けて下さい。

* 迎えが困難で、他の方にお迎えを依頼する場合は、必ず学校に連絡して下さい。

緊急連絡！

学級連絡網の活用方法

※この連絡体制は、他の場合も同様です。

①《連絡を受けたら》、《至急次の方に連絡》をして下さい。

②相手が《不在の場合》（留守番電話の時を含む）は、《その次の方に連絡》をして下さい。

※不在の人には、何度か連絡を試みて下さい。

※留守番電話のメッセージを聞かれた方は、メッセージを残した方にその旨連絡して下さい。

※最終的に連絡がとれない場合は、担任までその旨をご連絡下さい。

③《最後の家庭》は、連絡を受けたことを《担任まで連絡》して下さい。

◎お願い

※緊急時はもちろん、日頃より、登校日にはいつでも学校から確実に連絡がとれるようにしておいて下さい。

※携帯電話をお持ちの方で学校に知らせていない場合は、事務局までお知らせください。





詩部門 佳作 小学部2年 村木俊哉さん「りんごの木」

A cartoon illustration of a young boy with dark brown hair, wearing a red t-shirt and brown shorts, standing with his hands on his hips. To his left is a small, light brown dog with floppy ears, and to his right is a small white cat with pink inner ears and a pink nose. The background is plain white.

りんごの木
村木 しゅんや

りんごがなるたね
りんごがなるたね
うめたら
早く
なえに
なつれ！

りんごがなるなえ
りんごがなるなえ
すくすく
そだて
木に
なつれ！

りんごがなる木
りんごがなる木
おいしい
あまい
りんごが
なつれ！

りんごがなった木
りんごがなった木
ぽとんと
りんごが
おちてこい！

児童・生徒の作品

「蜘蛛の糸」を読んで 中学部3年 彦坂 健太郎

この作品を読み、最初に感じたことは筆者の巧みな表現力です。例えば「水晶のような」という表現を使い筆者は蓮池の透明さを表しています。このように、この筆者は幻想的なたとえを使い物語の様子を巧みに表現するところがすごいと思いました。

物語について面白かったと思うのは、人の欲深さが表されていたところです。やっぱり人は自分の事となると、つい自己中心的になってしまいがちです。韃陀多（カンダタ）もその一人で他に登ってきた罪人たちにこう呼びかけました。「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。お前たちは一体誰に尋ねて、登ってきた。下りろ。下りろ。」その途端、糸は切れてしまいました。人の欲深さは悲劇を呼ぶのだと思いました。

僕たちが今、国語の単元で学んでいる「高瀬舟」、喜助は犍陀多とは正反対の性格だと思いました。どちらも不運な運命をたどってしまいますが、欲のない喜助と欲深い犍陀多、両方の視点から物を見ると、色々な事に気付き興味深かったです。例えば、もし犍陀多が喜助だったら、喜助は蜘蛛の糸に群がる人たちをどうするのか、という疑問です。彼がどうするのか想像はふくらむばかりです。しかし、彼なら、「極楽」へ行けるような気がします。色々な想像ができるのが読書の魅力だと実感する事のできた良い機会だったと思います。

表現技法を巧みに使い、読者を物語の中に引き込ませることのできる芥川龍之介がなぜ歴史に残った文豪なのか理解できました。僕はこの人の他の作品を読んだ事がないので、今度、読んでみたいです。